

がんサバイバーの医療経済学者が激白 『日米がん格差 「医療の質」と「コスト」の経済学』発売

急性期病院を中心に経営支援サービスを行う株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン（GHC※1＝本社・東京都新宿区、代表取締役・渡辺幸子）の会長であるアキよしかわが執筆した新刊『日米がん格差「医療の質」と「コスト」の経済学』が6月28日に発売されます。

著者は、米スタンフォード大医療政策学部を設立し、世界中の「医療の質」を分析してきた研究者、経営コンサルタント、データサイエンティストです。病院が保有する医療情報をベンチマーク分析することで、「医療の質」を向上させる病院経営手法を国内で確立したパイオニアでもあります。

これまで国内外で多くの提言をしてきたアキが「大腸がん」になり、自身が「患者」になってみると、これまで「データ」だけではわからなかった「医療の質」も見えてきました。日本人と米国人の「がん」に対する考え方の違い、患者が得られる情報量、治療のガイドライン、周囲のサポート体制など――。さらに、日米の医療データには表われない要素が「患者の心」に大きな影響を与えていることが、自身の体験でわかってきました。

米最先端の医療経済学に「日本人のがん患者」という視点が加わった著者が、あらためて日本の医療の何が素晴らしいのか、何が足りないのかを、自身の闘病体験とともに赤裸々に記しました。また、今回の体験から今後のがん医療にとって必要不可欠との確信を得たがんサバイバーを支援する仕組み「キャンサーナビゲーション」（※3）についても紹介しました。

◆目次

プロローグ 「医療データ」を分析する学者が「がん」になるということ

医療経済学者、がんになる／医療経済学が明かす「いい病院」のウソホント／「ベンチマーク分析」が暴く病院の真実／質の「バラつき」が激しい日本の医療／患者になって初めてわかること／がん患者を支える「キャンサーナビゲーション」／日本の医療を変えよう

第1章 アメリカの医療経済学者、日本で「がん」を宣告される

間違っていた「自分は大丈夫」／がん宣告は「新しいチャレンジ」／スタンフォード大学との「医療の質」日米比較／医師と病院で決まる日本の現実／日米どちらで手術を受けるべきか／予防と検診を軽視したツケ／数字に表れない看護師の力／高級イタリアンを堪能して手術入院

第2章 アメリカ人が日本で「手術」を受けるということ

医療経済学者、手術を受ける／がんで亡くした日米医療行政のキーマン／親身に導かれ、医療コンサルタントに転身／人々を幸せにする医療制度とは／託された遺志／ジョブズとがん／風に吹かれて／日米で異なるがん治療の「バラつき」／標準治療が徹底されるアメリカ、医師次第の日本／日本の在院日数はなぜ長い？／痛感した「学者」と「患者」の視点の違い／日米名医の本気のバトル／病名は国ごとに変わる／一貫しない日本の医療の大問題／退院は本当の闘いははじまり／唐突なカミングアウト／

第3章 医療経済学者、ハワイで「ケモ」を受ける

海と水着の美女と抗がん剤／クイーンズメディカルセンターと「ケモ」／患者を支えるキャンサーナビゲーション／がん患者がキャンサーナビゲーターに？／ガイドライン遵守率の重要性／若きがんサバイバーに必要な妊娠性温存／「やり遂げた日本人は誰もいない」／直面した抗がん剤治療の現実／「ヨーダ」の助け／想像を絶する苦しみ、地獄のフライト／衝撃の「ケモブレイン」

第4章 「キャンサーナビゲーター」ががん患者を救う

ナビゲーターは患者と家族を支える第三者／「苦しむ」「復活」「研修」の繰り返し／がんを知ることが治療の力になる／患者を阻むふたつの障壁／がんサバイバーに必要なサポートとは／「治療後」に待ち受ける落とし穴／「やるべきこと」「やっつけたいこと」／「表現」が患者の心を左右する／医療にもある「フレーミング効果」／ベテラン医師と若手医師は何が違うのか／米国NPOの「層」が厚い理由／がん治療のゴッドマザーたち

第5章 医療経済学者が直面した「がん治療」の真実

対照的な「乳がん」と「肺がん」／がん治療は試行錯誤の歴史／がんほど「任せきり」が危険な疾病はない／患者から家族への最後のプレゼント／最初の手術から緩和医療ははじまっている／ネットで正しい情報を得る3つのポイント／検索サイトごとに情報はまったく異なる／消費者の情報は信頼性が高い？／情報量は英語が圧倒的／在宅で迎える死が際立って少ない日本／「知らない」ことの不利益／「がん」に立ち向かう人々」を育てる／情報こそ、がんサバイバーの武器

エピローグ 「終わらない闘い」を乗り越える

再発!? まさかの電話／心を救われた看護師のひと言／翻弄されるがん患者の心／終わりのない闘い／日本の「がん医療」に本当に必要なこと

日米 がん格差

There and Back Again
A Health Economist
Cancer Survivor Joany

「医療の質」と「コスト」の経済学

アキよしかわ
国際医療経済学者・がんサバイバー

国際医療経済学者、
「ステージ3B」のがんになる。
医療ビッグデータと
実体験から浮かび上がった
ニッポン医療「衝撃の真実」!

キャンサー
ナビゲーターが
がん患者・
家族を救う

- ◆単行本：234ページ
- ◆出版社：講談社
- ◆発売日：2017年6月28日
- ◆価格：1,800円（税別）

（※1）株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

医療専門職、ヘルスケア企業出身者、IT専門家から構成される経営コンサルティングファーム。急速な高齢化で社会保障財政の破たんが懸念される中、「質の高い医療を最適なコストで」という理念を実践する具体的な手法として、米国の医療マネジメント手法「ベンチマーク分析」を日本に初めて持ち込み、広めたパイオニアです。http://www.ghc-j.com/

（※2）アキよしかわ

米国グローバルヘルスコンサルティング会長。がんサバイバーの国際医療経済学者、データサイエンティスト。

10代で単身渡米し、医療経済学を学んだ後、カリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学で教鞭を執り、スタンフォード大学で医療政策部を設立する。米国議会技術評価局（U.S. Office of Technology Assessment）などのアドバイザーを務め、欧米、アジア地域で数多くの病院の経営分析をした後、日本の医療界に「ベンチマーク分析」を広めたことで知られる。著書に『Health Economics of Japan』（共著、東京大学出版会）、『日本人が知らない日本医療の真実』（幻冬舎メディアコンサルティング）などがある。

（※3）キャンサーナビゲーション

アメリカの医療現場で注目されている患者支援サービス。がん患者やその家族に正しい情報を伝え、治療を進めていくうえでサポートを行います。実際にはがん患者の支援にあたる人々を「キャンサーナビゲーター」と呼びます。あくまで「支援」であり、医療行為はできませんし、金銭的なサポートをするわけでもありません。がんとの長い闘いを強いられる患者とその家族に、専門知識と心の両面で支えています（関連記事『がん患者の不安と徹底して向き合い導く「キャンサーナビゲーション」って何だ？（http://www.medwatch.jp/?p=2496）』）。

本件のお問い合わせ：株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
担当：広報（島田） TEL：03-6380-2401（代表） mail：ghcpr@ghc-j.com

www.ghc-j.com